

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部	
	課名	土木課	
	係名	維持係	
	記入者		電話(内線) 241

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	公達雨水幹線整備事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	22202		(総合計画掲載ページ 76 ページ)				会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)				財源区分		国庫補助			
基本施策	2-2ゆとりある住みよいまちづくり(住環境)				予算科目		款 8	項 2	目 2	
施策	②良好な住環境の形成				予算書上の		防災・安全交付金事業費			
施策内容	2未排水施設道路の整備				事業名称		(予算書 135 ページに掲載)			
(5) 事業期間	開始		28	年	4	月から	(8) 事務分類		自治事務	
	終了		31	年	3	月まで (3 カ年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
道路の利用者	排水施設(側溝・排水管)を作ることにより, 人や車両が安全に通行できる。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
排水施設(側溝・排水管)の設置。 全体延長 L=733.2m ボックスカルバート(700*700)L=166m ボックスカルバート(900*900)L=352.2m 自由勾配側溝(900*1000~1200)L=60m 自由勾配側溝(900*900)L=144.3m 集水桝 13基	市道内の雨水側溝に, 県道結城野田線・国道50号の雨水が流入しているため, 大雨・ゲリラ豪雨等の時には側溝から雨水が溢れて道路が冠水している状況である。市道3170号線は, 結城病院への出入り道路であるため, 市の緊急輸送道路にも指定されており大変重要な路線となっている。排水路へ流れ込む流末側から整備し, 上流からの流量に耐えうる冠水対策を実施するものである。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
住みやすさが求められる中で, 道路や住環境の安全性への意識は非常に高まっている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
(1) 事務事業費	事業費	公達雨水幹線整備工事		42,000									
	合計				42,000								
	財源	国庫支出金 (千円)				22,000							
		県支出金 (千円)											
地方債 (千円)				16,200									
その他特定財源 (千円)													
一般財源 (千円)				3,800									
合計 (千円)				42,000									
補助・起債制度名				防災・安全社会資本整備 交付金 公共事業等債									

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	排水施設(側溝・排水管)の設置延長	目標値	m		140	300	293		
		実績(見込)値			140				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	排水整備率	目標値	%		20.0	70.0	100.0		
		実績(見込)値			20				
		達成率		%	%				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	ますます必要性は高くなっている(または、緊急性が極めて高い)					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である					
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的であり、特に問題はない					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	効率は徐々に高まっている(コストは徐々に削減)					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	広い範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない					
有効性	成果の向上								
進捗度	事業の進捗								
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
他の事業に比べてコストが高い為に、事業完成に期間を要する。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
コスト削減に努めて、早期完成を目指す。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)			本事業箇所は、市の緊急輸送道路や小中学校の通学路でもあることから、早期完成を目指し、財政状況と出来る限り調和を図りながら進める。				
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う					上記評価のとおり。				